

ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ

<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

12月4日〜5日、全国手話研修センターで近畿の聴覚障害関連の法人合同の経営講座に当法人からも4名が参加しました。講師からは「予算は法人の目標、大切に」と繰り返しあり、この時期、来年度に向けて事業計画と連動した予算づくりに取り組んでいきたいです。

日ごろの仕事

振り返るきっかけに

法人・施設監査を受けて

毎年11月には、法人の事業について上半期の業務及び会計についての内部監査が行われます。加えて今年には兵庫県、洲本市の指導監査も行われました。

まず、2日に会計監査が行われました。半期を過ぎて法人全体の収支差額が36万円余り。11月の短期入所事業再開でどこまで持ち直せるかが課題となっています。また、職員の採用や処遇改善による人件費率が昨年度より高くなっており、今後抑制するのであれば、労働組合と充分に話し合っ行って行うことなどの宿題もいただきました。

6日、今年6月から業務担当監事が、法人設立当初から担当していた村井監事から森川監事に替わって初めての業務監査です。事業所の様子などの聞き取りが行われました。

16日には行政の指導監査が法人と、ふくろうの郷を対象に行われました。

日ごろの業務で曖昧にしてきた点、今までのやり方に誤解があった点など、たくさんさんの指摘がありました。

11月末に開催された理事会では、理事の中からは「プロの手を借りながら、適正に経営を行ってほしい」との意見がありました。

制度などほとんど変化していません。その変化に乗り遅れないようにするとともに、今までのやり方、考え方を機会を捉えて常に検証していかなければならないと姿勢を正すきっかけとなりました。

(法人事務局長 橋詰 恭子)

(生活支援員 桑名ひとみ)



施設紹介する旅田さん。「初めて飛行機に乗りました」(右) 初めての名刺交換、川村さん(左)



全国聴覚障害者福祉施設協議会利用者交流会 11/8・9



慣れた手つきで名刺交換
松崎さん(右) 参加回数多く、顔なじみも多い勝楽さん(左)



全国には高齢聴覚障害者福祉施設が10か所あります。毎年入居者が一同に会し、交流を楽しくしており、22回目となる今年は埼玉で開催され、ふくろうの郷からは5名が参加しました。道のりは遠く、皆さん少し疲れた様子もありましたが、交流会が始まると笑顔が戻り、他の施設の方々とお話を楽しまれていました。恒例の名刺交換会では、何回も参加されている勝楽さんは慣れたもの、初めて参加の旅田さん、川村さんは、初めての経験とあって、最初は緊張しながらも、たくさん交換でき、嬉しそうでした。

舞台ではそれぞれの施設から取り組みやクラブ活動などについて紹介がありました。他の施設の方々と交流し、リフレッシュできた日になりました。

ふくろう物語

西内千鶴子さん

自分で語った人生

西内さんは昭和17年5月12日生まれ、75歳。愛媛県松山市で生まれ、育ちました。

19歳の時に結婚、大阪に移り住みます。大阪で暮らして二十年が経つ40歳の時、高熱によつて、耳が聞こえなくなり、シヨックで死ぬことも考えたそうです。そんな時に信号待ちしていた交差点で手話で話す人を見かけ、手話があることを知りました。手話サークルに1年間通い、手話を勉強しました。その後離婚、単身で明石市に移住されます。明石ではお弁当作りのパートなど仕事をしながら、1人暮らしをしてきました。

70歳を過ぎた頃から長時間の立位や歩行が難しくなり、デイサービスや兵聴協の訪問介護(ホームヘルパー)の支援を

受けていました。今年の春、迎えに行ったデイサービスの職員が、室内で転倒して動けない西内さんを発見、そのまま病院に入院しました。入院は半年間にも及びました。退院後の生活や老後のことへの不安をケアマネと相談していた時に、ふくろうの郷のことを知りま

す。入所の話が出た時、「まるで誰かに背中を押されるように」すぐに入所を決心したそうです。病院を退院したその日に、ふくろうの郷へ入所。平成19年5月12日、西内さんの誕生日でした。

「なんか運命的なものがあったのかな…」と少し照れたように振り返っておられました。

ふくろうの郷での生活 故郷への思い

ここでの生活についてお話を聞くと、ただ一言「快適」と。「今まではずっと1人で何もかもやってきたから、手



伝ってくださること一つ一つがありがたい」と手を合せておっしゃいました。

西内さんには姉のように慕う叔母さんがおり、今も文通をされています。「いつか会いたい。会いに行きたい」と目を細めて言われました。また「私が亡

くなつた時は愛媛のお墓で眠りたい」と故郷への思いも口にされました。その気持ちに応えることが出来るよう支援していきたいと思えます。

お茶目で、なんでもお話ししてくれる西内さん。今、たった一つだけ、困っていることがあるそうです。「居心地が良すぎて、痩せないのがつらい…」西内さんの気持ちを尊重しながら、美味しい食事をしていただき、一緒に笑ったり、泣いたり、少し喧嘩もするかもしれないませんが、西内さんとの時間を一緒に作っていききたいと思っています。
(生活支援員 堀田喜子)

インターンシップ 実践生より

5日間、ふくろうの郷で実習をしました。最初は不安でしたが、入居者さんから自分の経験など聞かせてもらったり、優しく接してもらえ、楽しく実習することができました。学校では出来ない貴重な経験になりました。今回の事を忘れてい進路について考えていきたいです。本当に短い間でしたが、お世話になりました。有難うございました。
神戸聴覚特別支援学校
高等部2年 佐野史乃

洲本市美術展

11月3日(金)、洲本市美術展へちぎり絵をされている入居者と鑑賞にいきました。

この半年間、洲本市展に展示して、一般の方々に観てもらいたいと作成してきました。残念ながら、集団制作の作品は応募外とのことで、展示は叶いませんでした。

他の方の作品を鑑賞した後、お茶をしながら「来年は展示してもらえるように頑張ろうね」と話が盛り上がり、皆さんはとても意欲的でした。



▲来年は頑張ろうと作品を鑑賞する入居者さん

炊き出し訓練

11月15日、防災委員会が主体となつて行われる恒例の炊き出し訓練がありました。

施設には備蓄用食品も保管されていますが、災害時に長期間ガスや電気などのライフラインが使用不可になつた際にも食事提供ができるよう、毎年訓練を行っています。普段は調理職員が主となり食事提供を行います。災害時はどの職員でもできるように、介護職員や看護職員、事務職員も一緒に昼食を作りました。

炊き出し訓練の際は、入居者の皆さんも野菜を切ったり米を洗ったりするのを手伝ってくださいます。朝の会で「今日は炊き出し訓練です」「地震の時は厨房が使えなくなるかもしれません。その時のために今日は皆で訓練をします」と話す、頷きながら聞いておられました。訓練では外にかまどを作



▲入居者さんも野菜切りに加わってくださいました。

り、ごはんやお粥もすべて炊き出しで作ります。普段大量調理に慣れていない職員たちが、火加減はこれいいのか？焦げたりしないか？など声を掛け合いながら作りました。結果、ごはんもお粥もやわらかく炊け、ハヤシライスも美味しく作ることができました。入居者の皆さんからも「おいしかったよ」という声をいただきました。

（防災委員会 秦 奈津子）

福祉のしごと職場見学バスツアー



福祉人材のすそ野を広げるために、まずは福祉に興味を知ってもらおうとの県社協福祉人材センターの企画で、県下20施設の「福祉の仕事職場見学バスツアー」があり、応募していたところ、11月17日に17名の他人数で訪問いただきました。1時間半と短い時間でふくろうの郷と中川原ふれあいセンターを見学していただくという時間に追われたスケジュールでした。

参加者のアンケートでは介護現場、特に夜勤の大変そうなイメージも感じながらも、職員の笑顔や生き生きと働く姿に福祉の仕事への興味もわき、「もっとゆっくり話が聞きたかった」「仕事探しを始めた」「実際に体験をしたい」との福祉の仕事へのいいイメージを持たれた方も多かったです。結果が示されています。ふくろうの郷についても見学後「実際に経験してみたい」と申し出があり、お二人に職場体験にきていただきました。

鶴見区聴言障害者福祉協会と手話サークルの有志で、政田さんと親交の深かった方、32人の訪問がありました。政田きくゑさんは、活動的で婦人部長など積極的に役員も受け、また高齢となつて役を降りられてからも毎日のように、大阪ろうあ会館などの行事に参加しておられたこともあり「寂しい、会いたいね、元気な様子を見に行こう」と企画されました。皆さんの思い入

政田さんに会いたい！と大阪から32名



▲再会を喜ぶ政田さんご夫妻

れも強く、またきくゑさんも仲間の顔を見るなり「嬉しい、嬉しい」と、一人一人に抱きつく有様。勉さんも交え、昔話や近況などお互いに語ることも多く、話しが絶えませんでした。

「まなびあい文庫」についてレポート発表

11月25、26日第21回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会が埼玉県で開かれ、「ふくろう学びあい文庫」の取り組みについてレポート発表をされました。

参加者からは「まなびあい

文庫」の対象者はどうやって決めるのですか」とか、「本当は入居者全員の本を作りたいですね」などの声がありました。共に聴覚障害者を支援する者同士、立場は違えど色々な話ができ、とてもいい経験ができました。

（生活支援員 中村久香）

**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

今回第8回社会生活教室は、「介護保険について」をテーマに、居宅介護支援事業所桜ヶ丘のケアマネジャー濱田良介氏にお話し頂きました。

介護保険ってどんなシステム?

まず介護保険料は何歳から払っているのか、また利用したい時の申請方法、サービスの種類や内容についての説明がありました。サービスは大きく分けて①自宅に来てもらう②施設に通う③施設に泊まる④施設に入所するがあり、申請された方の介護度の状態に合わせて、使えるサービスや回数、料金等も異なります。利用者のご希望に合わせたサービスの調整や利用料の計算などしてくれるのがケアマネの役割であり、気軽に相談して欲しいと濱田氏は話

介護保険について学ぼう 第8回社会生活教室

されます。
**関心高く
質問飛び交う**



▲今後の不安や現在利用しているサービスなど情報交換しました。

「兄が今病院に入院している。介護度が重くなると、入院費用が安く変わると聞いたが本当か?」という質問もあり、医療保険と介護保

険が混同している方もおられました。また「介護保険料は皆同じ料金?」「在宅ですとのお世話してくれるの?」など質問が飛び交い関心の高さが伺えました。午後からは、2つのグル

ープに分かれて「今の生活の中で困っていること」「これからのことで不安はあるか」など話し合い、すでにサービスを利用されている方もおられ、その方からお話を聞いたりし、情報交換もできました。参加者の宮田さんから「友達や家族から介護保険の事を聞いたりして何となくわかっていっていると思っていたが、今日内容を説明してもらい、どのようなサービスが利用できるか理解が出来た」と感想がありました。

継続的に学習会を

来年4月に介護保険法の見直しがあります。前回の改正では所得が一定以上だと自己負担が増えたり、施設入所は介護度3以上など利用する人にとっては厳しく変更されました。今後どのような内容に変わっていくのか、継続的に学習会を開いて必要な知識を得し、安心して制度を使っていけるよう学習の場を作っていくと考えています。(川道 考子)

盲ろう者と話してみよう

手話奉仕員養成講座・集中講座では、兵庫盲ろう者友の会理事の奥井 大氏より「盲ろう者とは」のテーマで、ご自身の経験を重ねながらお話しいただいたあと、受講生がそれぞれ触手話で自己紹介をしました。「盲ろう者の苦労や努力に感慨深いものがある。もつとわかり合う為にも、コミュニケーションを取りたいと思った」と初めて盲ろう者の体験を聞いた受講生の武田さんが感想を述べられました。(高木恵理)



触手話体験する受講生(左)と奥井氏(右)

日頃の通訳活動を振り返る機会とつ

11月1日、8日に講師 修(読取学習)を行いました。講師からは「ただ手話を平井裕子氏にお越しただき登録手話通訳者の技術研者の背景や言いたいことを理解しながら読み取って欲しい」とアドバイスを受け、学習を深めました。参加者の川満氏は「研修会で普段の通訳活動では気づかなかつた事を改めて気づくことができた、またこのような機会があれば参加したい」との感想をいただきました。(川道 考子)

▲「背景を理解した通訳」とと平井氏

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992

おのころの家
利用者の活動状況

室内作業班は、主に手作り作業、箱折作業です。着物のリサイクルとして袋やシヨルダーを縫製し、各地のイベント等で販売しています。買っていたいた人のシヨルターをみて、「私もほしい。」と注文をいただき、その人の要望に合った形や紐の長さを調整して大変喜ばれています。パッチワークや手編み等得意としている人もあり、定番としてポーチ、座布団も制作販売につなげています。

地域の方からは、時々販売している赤飯が好評で、最初は、豆が少なかったり塩辛すぎたり、失敗を繰り返しながらも今は、「美味しかったよ。」「又、作つてよ。」と喜んでいただいています。

▼通所者の得意な技を活かして作ったポーチ等



今日もお餅を作つて販売しました。83才の方が21才の若い通所者に餅のみ方やあんこの包み方を教える。又、昼食前の準備では、机の拭き方やお茶を運ぶように伝えたり、みんな家族のように楽しく、過ごしています。言葉が通じなくても表情で気持ちに通じています。心と心の触れ合いを大事にしたいと思います。(藤本美保子)

箱折作業は、一宮の線香の会社から委託されており、どんな箱も折ることができ、頼りにされています。

最近、若い利用者さんも増えたこともあり、何か加工品がでないかと思案していたところ、「アロマキャンドル」を作ってみないかというお誘いを受けキャンドル作りに取り組んでいます。又、さくらシヨツ

プというお店をオープン。日用品やお菓子(駄菓子)等販売しています。センターを利用される人たちに好評をいただいています。

第21回全聴福研で第1分科会「労働の発達を考える」でのレポート報告
「高齢者や障害者一人ひとりが、役割をもって生きるための福祉農業」

キーワード： 廃校活用、高齢化した農村、淡路玉ねぎ

おのころの家 橋詰一則

11月25日～26日、埼玉県で行われた「第21回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会」に参加して、『高齢者や障害者一人ひとりが、役割をもって生きるための福祉農業』というテーマでレポート発表しました。おのころの家で取り組んでいる福祉農業について発表したのですが、うまくまとめきれず時間が足りませんでした。

そのためか、発表に対する質問は農業よりも「おたがいさま中川原」の活動内容や運営方法などに関するものが多くみられました。「おたがいさま中川原」の応援者としておのころの家が登録し、依頼のあった草刈や庭木の剪定等を行っていることや地域住民とのつながりを作るためにどのようにコミュニケーションを行っているかを紹介しました。

農業に関しては、地域の農地を借りて作付面積を広げると、農作業をしているなかまから賃金アップの要求が出るようになった事例などを紹介するとともに、「利用者主体」「自己決定」できるような支援をしながら農業を発展させていきたいと伝えました。

なかまが地域でサービスを受けながら質の高い生活が継続できるよう、私たちも支援の質を高めていく必要があります。そのためにも自分たちの日々の取り組みを振り返る機会をこのレポート発表で得ることができたと同時に、全国で私たちと同じようになかまの支援に取り組む人たちの熱い思いに大いに刺激を受けました。この学びをこれからの支援につなげていきたいです。



地域支援の様子



神戸事業所

安心して暮らせる
福祉施設を!!

共同作業所 神戸ろうあハウス

神戸ろうあハウス デザイナービスセンター

〒652-0897 兵庫県神戸市兵庫区駅南通 5-4 西高架下 16号
TEL & FAX ... 〇七八五七九〇七五五

神戸市における

聴覚障害者福祉充実を

手話カフェを引き継ぎます!!

10年間、ひよう聴ネットが運営してきた「手話カフェ」を来年1月から神戸ろうあハウスのB型事業で引き継ぐこととなりました。10月に見学に行ったときは、お客様がいっぱい座ることもできず、11月は朝の9時から一緒に準備をさせてもらいました。11時半オープンにあわせて、カレーやおでんを煮込んだり、ケーキを切ったり、みなさん忙しく走り回っていました。お店を開くと、すぐにお客様が来て、「カレーセット」「おでんセット」と注文が次々に入ります。姫路から来ていた男性の方、講座が終わってこられたグループ

など、手をいっぱい動かして、話が弾み、笑い声が聞こえてきました。今まで手話カフェを楽しみにされてきた方々に、これからも楽しみの場として来て頂けるように頑張りたいと思います。ぜひ、ご来店お待ちしております。(野村 洋子)

神戸での施設建設 学習会作り

「卒業」スタートライン

の映画上映会開催

12月最初の日曜日、「卒業」スタートラインの映画上映会を開催いたしました。参加者128名での上映会、引き続き、ゲストで来られていた谷監督、勝山プロデューサーとのトークと最期まで席を立つ人もなく、皆さん日曜日の半日を満喫されました。「3・3声明」のことを知っていた人、知らなかった人。それぞれの立場で映画を味わい、感じたと 생각합니다。また、トークで、谷監督が、「今のろう学校の生徒と話

して、50年前とあまり変わっていない、と思いいこの映画を作りました。また、勝山プロデューサーの「制度ができてきましたが、みんなが自分の生活を振り返って何が不便なのかを考えるきっかけになれば、自分で考え自分で行動する事が大切」と話されたことが印象的でした。最後にこの映画を上映することが神戸の施設建設や京都のいこいの村の栗の木が新しく変わる、その運営に役に立てば幸いです。と締めくくられました。

なお、同日西播地域でも神戸での施設建設委員会活動の上映会が開かれ、31人が鑑賞されました。(眞木 崇江)



谷監督(中央) 勝山プロデューサー(右) とトークショー

年末年始 ふくろうの暮らし

- 12/15 (金) ふくろう大学料理講座
- 12/19 (火) ふくろう大学絵手紙講座
- 12/20 (水) 中川原地区老人クラブ連合会
地域交流会のしめ縄・餅つき大会
来年の漢字
- 12/22 (金) クリスマス会
- 1/1 (月) 新年互礼会
- 1/2 (火) 初詣
- 1/7 (日) 七草粥
- 1/9 (火) ふくろう大学書道講座
- 1/12 (金) ふくろう大学ちぎり絵講座
- 1/16 (火) ふくろう大学絵手紙講座
入居者懇談会
- 1/20 (土) 地域交流会手話講座



ふくろうの郷見学予定

- 12/11 (月) きょうさ連兵庫支部様 18名
- 12/18 (月) 北海道石狩市より 2名
- 30年 1/29 (月) 東京都 唯藤様 4名

年末年始のボランティア募集中

左記の年末、年始の行事、しめ縄、餅つき大会・クリスマス会・お正月のお節盛り付け、初詣のボランティアさん募集中。

お手伝いいただける方はふくろうの郷まで連絡ください。